

会 議 要 旨 (全文録)

会 議 の 名 称	印西地区環境整備事業組合 印西地区ごみ処理基本計画検討委員会 第2回会議
開 催 日 時	平成30年6月10日(日)午後2時00分開会
開 催 場 所	印西地区環境整備事業組合 3階 大会議室
議長(委員長) 氏 名	大迫 政浩 (国立研究開発法人 国立環境研究所 資源循環・廃棄物研究センター長)
出席者(委員) 氏名(人数) 敬略称、順不同	鬼沢 良子 (NPO法人 持続可能な社会を作る元気ネット事務局長) 津島 孝彦 小熊 清 五十君 みつる 大家 茂樹 田沼 育男 鹿目 修 (印西市廃棄物減量等推進審議会委員) 花安 利章 (印西市立本埜中学校 校長) 榛沢 宏一 (白井市立白井第1小学校 校長) 鳥羽 英之 (栄町立布鎌小学校 校長) 平林 繁 (榊平林 代表取締役会長) 船越 勝行 (日本食研ホールディングス(株)千葉総務部 次長) 計12名
欠席者(委員) 氏名(人数)	藤田 均 (白井市廃棄物減量等推進審議会委員) 福本 朋子 (栄町廃棄物減量等推進員) 川井 大海 (イオンリテール(株)千葉ニュータウン店人事総務課 課長) 計3名
事務局の出席者	印西地区環境整備事業組合 (印西クリーンセンター) 高橋 清 (事務局長)、小川 和弘 (工場長)、土佐 光雄 (副参事)、 長沼 徳雄 (主幹)、岩井 久 (副主幹)、大野 喜弘 (副主幹) 組合構成市町 板倉 浩 (印西市 係長)、川上 利一 (白井市 課長)、 大村 俊之 (栄町 課長補佐) コンサルタント 株式会社日本環境工学設計事務所 (1名)

発言者	内容
次第1 開会	
事務局	資料の確認及び、38 ページの文言追加の説明
次第2 委員長あいさつ	
(委員長あいさつ)	
次第3 議事	
事務局	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、早速議事に入りたいと思います。印西地区環境整備事業組合附属機関条例施行規則第2条の規定にのっとり、大迫委員長に議長をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。</p>
委員長	<p>それでは、まず初めに議事録署名人を指名したいと思います。本日は五十君委員と大家委員を指名させていただきます。よろしくお願いいたします。</p> <p>では、次第の3、議題の1として印西地区環境整備事業組合の現状と実績について、事務局のほうからご説明をよろしくお願いいたします。</p>
事務局	(1) 印西地区環境整備事業組合の現状と実績について (説明)
委員長	<p>ありがとうございます。</p> <p>それでは、何か質問等ございましたらお願いいたします。</p>
小熊委員	今、実績値を報告の中で、中間目標年に対するもののほとんど、達成していない状況ですが、目標年まであと2年ですが、どのような見込みですか。
事務局	<p>目標年が平成32年度で、あと2年しかないため非常に厳しい数字になっています。特に事業系ごみについては増加している状況となっています。</p> <p>家庭系ごみについては、市町の施策が直接市民に浸透するため、目標に近い数字で推移していますが、事業系ごみについては、事業所の増加していることや、市町の施策があまり浸透していないと思われるため、目標達成というのは非常に難しい状況と考えています。</p>
委員長	<p>そのあたりは、次の議題でどういう取組みを行ってきたため、ある程度ごみ量が減ったのか、あるいはまだ効果が出ていないのかといった取組みの話があります。</p> <p>また、中間目標に対して達成が厳しいという状況が、今後議論していく上で、大きな認識、理解をすべきところであるため、頭に置いておいていただきたいと思います。</p>
鬼沢委員	資料に人口の推移があり、順調に人口が伸びているということは、ごみステーションの数も増えていると思いますが、印西地区内にステーションの数は、現在どのくらいありますか。

事務局	総数は把握していません。しかし、印西地区内全体では人口が増加していません。特に印西市が一番人口増加している状況で、新たに住宅が建てられると、そこにごみ集積所が設置されるため、人口が増えているのと同時に増えていると認識はしています。
鬼沢委員	人口と並行してごみステーションの数も、増えているということですか。
事務局	そういうことです。
委員長	ごみステーションの設置は住民の方から申請が来るのか、行政として状況を踏まえ、ごみステーションを設置する依頼をかけるのか、どのように対応をしているのですか。
事務局	市町により、ごみ集積所の設置の仕方が違います。しかし、基本的には開発計画があると、そこに何世帯で幾つといったルールが設けていますので、むやみに設置できるものではありません。そのほかにも、市町の窓口に要望があれば対応する場合もある、という状況になっています。
田沼委員	外国人の人口だが、外国人登録とは、そこに住民票があるということか。
事務局	現在は、住民基本台帳に外国人の方も登録されています。海外から働きに来た外国人や、結婚した外国人も住民基本台帳に日本人と同じように登録されているということです。
田沼委員	例えば一家で、夫婦のどちらかが外国人といった構成の家庭は外国人としてカウントしているのか。それとも、されていないのか。
事務局	家族単位での外国人登録ではなく、個人個人での登録となるため、例えば奥さんが外国人であれば外国人登録で、旦那さんは日本人登録となっています。
委員長	いずれにしてもアジア中心に、かなり外国人人口が増加している現状は、認識としてあります。
鳥羽委員	総ごみ排出量の実績ですが、排出原単位は平成 20 年から 22 年は下がり、以降は 25 年まで上がり、以降は下がっていますが、その推移の理由はどうしてでしょうか。 また、事業系ごみは平成 20 年から 23 年まで下がり、23 年度からは昨年度までは上がっているということで、どういう理由が考えられるのでしょうか。
委員長	なかなか正確には出しにくいとは思いますが、何か解っていることがあれば、お願いします。 また、家庭系ごみは、災害ごみは入れているのか、それについても併せてお願いします。

事務局	<p>多分、総ごみ排出量が 25 年度まで上がった理由は、東日本大震災も影響しているかと思いますが、きっちりとした分析が、そこまでできていません。ただ、一人当たりのごみの排出量は震災関係で膨れ上がったと考えています。そのほか要因については把握できていない。</p> <p>事業系ごみが増えている一番の要因は、やはり事業所が増えているということが考えられます。</p>
委員長	<p>事業所が増えているということではありますが、今後分析も進めていただきたいと思います。</p>
鹿目委員	<p>数値上の確認ですが、ごみ処理システム評価の中で、印西市の原単位が 27 年度実績で 0.895kg/人・日となっていますが、詳細データの中では 890.9g/人・日と若干異なっています。その理由について説明願えますか。</p>
事務局	<p>システム評価の数値は、環境省のシステムになっており、市町を選択すれば、自動的に数値が出てくるようになっていました。この数値は、人口を基準にした年月日別になっており、今回の印西市の数値は、現行計画を踏襲しており、詳細データについては各年度末の人口を使用し、それを基準に計算しています。この環境省のシステムは、いつの時点の人口を使われているのかシステム上に掲載していないため、若干の違いが出てきてしまうということです。</p>
委員長	<p>この五角形はレーダーチャートといい、これは環境省がデータの全部を入れ、自動的に印西市の結果が出てくる形になっているので、今説明があったようにベースが若干違うところがあるかもしれないということです。</p>
鹿目委員	<p>栄町の有料化だが、これは実際に町の歳入としているのか。</p>
栄町	<p>ご認識のとおりです。</p>
鹿目委員	<p>家庭系ごみが印西市と栄町に比べ、白井市がかなり減少しているということだが、白井市の家庭系ごみだけが県目標を達成できているということで、何か特別な施策を実施しているのか。</p>
白井市	<p>白井市では、家庭系ごみ原単位の目標を平成 32 年度で 480g に設定をしています。それに向けて各自治会等に PR しており、その成果が出てきたのと、ごみの減量講座を実施しており、町内会や小さな講座等に機会があれば訪れ、ごみの減量方法をわかりやすく解説しています。それによって、このような結果がでてきており、市民に浸透してきていると分析しています。</p>
津島委員	<p>先ほど事業系ごみの原単位が増加傾向にあるという話があり、印西地区の事業系ごみを、燃やすごみと燃やさないごみで見ると、大部分が燃やすごみになっています。この燃やすごみの内訳は、どのようなものなのか。この内訳が解れば、資源化できるものは資源化させる方向で、ごみ減量化に向けた取り組みや努力をしていかなければならないと思う。</p>

委員長	事業系ごみの組成分析までは行えるか分かりませんが、もし参考情報でもあれば、お願いします。
事務局	事業系ごみは、燃やすごみと燃やさないごみでしか把握できていないので、分析結果は特にありません。見た目的には、事務所関係の紙の量がかなり多いと把握しています。
委員長	飲食店から出る生ごみ等については、把握していますか。
事務局	資料に燃やすごみの組成分析結果がありますが、事業系ごみも、これと類似した状況です。
委員長	資料にある燃やすごみの組成分析結果は、事業系ごみも含んだ、すべての燃やすごみの組成分析結果と理解してよいということですね。
小熊委員	事業所数は減少しているが、事業系ごみの排出量は増加しており、それが結果として排出原単位を押し上げています。その関連ですが、燃やすごみの組成分析の中にあるプラスチック類の内訳で、容器包装ごみのプラスチックはどのくらいの量なのか判りますか。近年、容器包装プラスチックが増加していると感じられますので。
事務局	それに関するデータはありません。
委員長	事業所数は減少しているが、事業系ごみの排出量は増加している要因の1つとして購買量など、経済活動的には景気が良くなっていることが影響している可能性もあり、事業系ごみ減量化に対する問題意識を指摘していると思われます。
鳥羽委員	事業所数は平成18年から平成21年までは増加していますが、事業系ごみの排出量は平成20年度から、平成21年度、平成22年度と毎年減少しています。これは何か施策や取組があり減少しているのか。もし、取組みをしていたならば、今後2020年度に向けて事業所に、さらなるごみ減量化の取組みをお願いするというこも、ごみ減量化の1つの方法だと思います。
事務局	減少している要因は把握できていません。
鹿目委員	事業系ごみだが、現在の処理手数料は10キロ260円ですが、以前は250円で消費税改正に伴い、平成26年4月より250円/10kgから260円/10kgに上がったと思います。それによってごみ量の増減に変化があったのか、わかりますか。
事務局	以前は250円でしたので、現在は上がっています。それによって、ごみ量の増減があったのかは、把握していません。
委員長	事業系の搬入に関しては、処理手数料や受入基準などの変化の影響も見ていく必要がありますので、把握しておく必要があります。 次は、実績と関係するアクションプランの取り組みの状況について、事務局から説明をお願いします。
事務局	(2) 前回計画後のアクションプランの取り組み状況について ひとりで始められること(説明)

委員長	ありがとうございます。 それでは、何か質問等ございましたらお願いいたします。
小熊委員	資料で、印西市の例ですが、分別が浸透していない地域があると出てきていますが、地域は把握しているのか。また、把握しているのであれば何か対策はしているのか。教えていただけますか。
印西市	把握しているだけということになっています。今後、町内会の説明会時に「出前講座や減量化説明会を実施しています。」と、いう PR は考えています。
小熊委員	今後は PR だけではなく、対策をしていくという解釈でよろしいですか。
印西市	何らかの対策はしていかないと、ごみの集積所等の問題があるため、さらなる啓発をしていく方向で検討して行こうと考えています。
委員長	町内会で担当の人が分別の監視、ビラ配り等、地元の人たちと協力して取り組むのではなく、市が啓発活動等をしていくということですか。
印西市	町内会によっては、ごみカレンダーを使って啓発活動を自発的に行っているなどしているため、市においてもそうしたごみカレンダーを作成することを検討しています。
鹿目委員	雑紙の分別の徹底という項目で、印西市は 29 年度より雑紙収集用回収袋を説明会やイベント時などに配布とありますが、この回収袋を徹底していけば、雑紙が燃やすごみからかなり減ると思います。これをもっと広く啓発等で徹底していく考えはありますか。白井市と栄町の考えもお聞きしたい。
印西市	印西市では、支援学校の生徒に、新聞紙でつくる雑紙袋のつくり方を作ってください、それを環境フェスタ等のイベント等で配布しています。
白井市	白井市では、雑紙の混入が非常に大きな課題となっており、分別の検討はしています。雑紙回収袋は良い発想ということで、作成を検討したが、費用の面等色々検証の必要があることから、先延ばしとなっています。
栄 町	栄町では、雑紙自体は資源化できるものであるというところを強調し、専用収集袋をつくるか、つくりたくないかは別として、まず分別することが大切ということ、出前講座、や啓発で強調しています。 また、ここ 3、4 年間は家庭の生ごみを減らそうということで、モデル事業を数件やっており、引き続き 30 年度以降も事業は続ける予定です。 さらに、今後は雑紙の分別の施策を考えていきたいと思っています。
五十君委員	雑紙ですが、資料の燃やすごみの組成分析表では、紙類が 41% と最も多くなっているの、私自身なるべく紙は分別して、雑紙として出すようにしています。しかし、個人のプライバシーに関わる名前が入ったものは、雑紙として出しにくいというのがあります。結局、細かくして燃やすごみとして出してしまっていますが、自分でちぎって紙類を雑紙として出していいものかどうかわからない人は、たくさんいると思います。そのような点を踏まえ、雑紙をもっと分別して出しやすくするような方法を、何か検討されていますか。

白井市	シュレッターされた紙も資源として回収できます。ただ、皆さんはプライバシーがあるものについては、非常に嫌がりますので、なかなか難しい面があります。その辺の対策を、自治会の連合組織でもごみの減量化をしないと、市の財政も厳しいということで、協力的にやっていただいております、そのようなことも踏まえて、検討しながら進めていきたいと考えています。
委員長	破ったりしても雑紙として、回収はできるという事ですね。
五十君委員	どのような形にしても、回収袋に入れてもかまわないということですね。
白井市	もし嫌であれば、ちぎって別の日に出すように、袋を幾つかつくり、そこにバラバラに小まめに入れて時間差攻撃ということも有効ではないかと思っています。
委員長	いずれにしても、最後は溶かして、ある程度繊維は残っているため、繊維を生かしながら再資源化するため、多少ちぎっても大丈夫だと思います。 次に、アクションプランの、地域の人々と始めることの説明をお願いします。
事務局	(2) 前回計画後のアクションプランの取組み状況について 地域の人々と始めること (説明)
委員長	ありがとうございます。 それでは、何か質問等ございましたらお願いいたします。
花安委員	環境教育への参加のところで、白井市で小中学校と連携した環境学習等の実施とありますが、小中と具体的にどのような連携をされているのか、わかれば簡単に教えていただきたいと思います。
白井市	小学校では、4年生で、ごみ、生活に関する授業でクリーンセンターを見学し、その際に簡単なごみのクイズを実施し、それを家庭に持ち帰っていただいて、今度は親にごみのクイズを出して一緒に考えるといったことをやっています。小さいうちから、そういうごみの減量化意識を植えつけるということで、大きくなったときに自然とそれが身につくようなことをやっていこうということで、学校と協力してやらせていただいております。
花安委員	中学生は、小学生のように体験的な活動があまりないので、中学生がどんな感じでどのくらいこの教育の中に参加しているのか。 また、小学生とどのような連携を取っているのか、教えていただければと思います。
白井市	おっしゃる通り、中学は授業過程の関係で、なかなかそういう部分に入り込める部分が少ないと思います。特に受験を控え、いろいろ対策しなければならない等あるためです。職業体験で環境課に来る中学生もおおり、職業体験でやったことを履修式授業で発表等を学校でやっていますので、それで学校の皆さんに周知をしていただく形で実施しています。

五十君委員	イベントへの参加ということですが、先ほどからお伺いしておりました、クイズの実施、いろいろな呼びかけ等様々な対策を行っていますが、ふるさとまつりや地域でのお祭り等のイベントで、マイバッグ使用、マイバッグを持ってくる呼びかけ、マイ箸を持参してもらう呼びかけ等を、事前に用意しているチラシやポスターなどに、一言添える等、その場で呼びかけるというようなことは効果があると思いますが、そのような取組み等はお考えでしょうか。
印西市	印西市では、そのような試みも必要かとは思っています。例えばリース食器を使う等、まだ検討している段階です。
五十君委員	お祭り気分には水を差すようなことではないが、「ちょっと持ってきてもらえるように。」といった言葉がありますと、子どもは真面目なので一生懸命持っていくようにするため効果的であり、それも教育の一つと思うため、ぜひ実施していただきたいと思います。
白井市	今の件、非常にいいご提案だと思いますので、検討したいと思います。実はイベントで、ごみの分別クイズを実施しており、正解すると参加賞としてマイバッグを差し上げたりすることで意識づけをしたり、イベントの際にマイバッグを配布し、なるべくレジ袋は使わないようにしましょうね、というような働きかけはしていますが、あまりまだ浸透していない気がします。
鬼沢委員	関連ですが、先ほどの五十君委員の提案はとても良いと思います。 お祭りのチラシの最後の一行にでもいいから、「お祭りのときにはマイバッグやマイ箸を、ご持参ください。」と、一言入れるだけで効果はあると思います。初めから、リユース食器を使用したりするのは、予算も人手もかかりますが、予算が無くても出来ることから、始めていけば良いと思います。ホームページでどんなに情報を流しても、ホームページを見て実践する人というのは、関心の有る人に限られるため、お祭りを楽しみに来る関心の無い人に、「どれだけ情報を届けるか、周知できるか。」ということが大切で、今の提案はすごく良いと思います。チラシを見て実践する人がいれば、その分ごみが減りますので、ぜひ今年からでもやっていただきたいと思います。
委員長	ありがとうございます。 次に、アクションプランの、「制度を整えていくこと」の説明をお願いします。
事務局	(2) 前回計画後のアクションプランの取組み状況について 制度を整えていくこと (説明)
委員長	ありがとうございます。 それでは、何か質問等ございましたらお願いいたします。
大家委員	アクションプランで評価が×になっているものが5つぐらいあります。このアクションプランは、優先順位が低いのか、または難易度が非常に高く取組みなかったかどちらなのか、×になっている理由を伺いたしたいと思います。

印西市	<p>×が付いている事業は概ね事業系ごみのため、どうしても市町としては家庭系ごみを取扱うのが優先でもあり、事業系ごみの持込みについては市町というよりも組合に持込むことになるため、優先順位が低かったというところがあります。</p>
委員長	<p>事業系ごみの施策としては、多量排出事業者に対する啓発的なものがありますが、啓発は各市町が担当しているのですか。</p>
印西市	<p>多量排出事業者については説明を行い、計画書を提出してもらいます。 また事業者に対して、昨年度からパンフレットをつくり、資源の出し方等の適正処理について啓発をしています。</p>
委員長	<p>多量排出事業者は、全て印西クリーンセンターにごみを持込んでいるのですか。印西クリーンセンターにごみを持込むのであれば、業者に資源化をお願いする等、搬入するのではなく、資源化するように啓発をしているのですか。</p>
印西市	<p>それもあります。 また、燃えるごみに混入している廃プラやペットボトルや雑紙等を、資源化するように啓発をしているところです。</p>
委員長	<p>クリーンセンターの搬入量を減らすことで、多量排出事業者に資源化や減量化を進めて、施策をより強化することは一定の効果がある施策だということですか。</p>
事務局	<p>事業系については、事業者が直接委託した回収業者が組合に搬入しており、回収業者を把握出来ていない部分があり、周知が徹底されていないと思います。そういったことを今回の基本計画で、どのような対策をすれば効果があるか、皆さんからご意見いただきたいと考えています。</p>
津島委員	<p>事業系ごみの持ち込み手数料は、10kgで260円、1kg当たりでは26円となっています。ところが、ごみの1kg当たりの処理経費を見ると38円掛かっているということで、持込手数料は処理経費以下となっています。事業系ごみについては、法的に「事業者独自で処理する。」と、いうこととなっているため、住民の立場からしますと、少なくとも処理費（手数料）は、必要経費程度必要ではないかと思っています。その辺り事務局はどのように考えていますか。</p>
委員長	<p>処理経費は1kg当たり38円かかっています。もちろん、ごみの有料化で袋代等もあるため、そこまで徴収していないわけですが、事業者に対しても「1kg当たり38円は取っていない。」という、疑問もあります。 しかし、家庭系のごみ処理経費と、バランスをどう取っていくのか、という議論もあります。</p>
事務局	<p>ごみ処理経費につきましては、次の方針に織込んでいただき、組合として今後検討して行かなければならない課題と思います。今度、消費税も上がる予定ですので、タイミング的に検討課題と考えています。</p>

委員長	<p>ごみ処理経費については、全国的に 1kg 当り 26 円は平均的だったと思います。</p> <p>また、事業系ごみの課題として、食ロスの問題もあります。食品残渣はリサイクルに行かずに安易な処理の方に流れてしまうのが多いということで、事業系のごみ処理手数料を検討しても良いのではないかと思います。今、国の施策の中でも食ロスの問題は出てきています。そういう問題意識があるということ、すぐすべきか、もう少し分析するのか、あるいは家庭ごみとのバランスをどうするのか、といったことも今後考えていく必要はあります。</p>
津島委員	<p>有料化の調査・研究のことと関連しますが、千葉市が平成 26 年 2 月にごみの有料化をしており、45 リットルの袋を 360 円で買ってもらうといった有料化で、その制度を導入して 8.4%のごみの減量につながっています。トン数にすると 1 万 6,000 トン近い減量になっています。2 年目は少し落ちていますが、1 万 4,000 トンの減量となっています。これから減量ということでは、住民にとって出費がかさむ有料化で減量につなげていくということも、ごみ減量化の方法一つかと思えます。事業系ごみについても、そういう観点からも含めて見直しも必要ではと思えます。県の目標が原単位で 500 グラムということで、現時点では達成できていないことで、やはり強力なごみの減量対策を実施していくことも検討すべきではないかと思えます。</p>
委員長	<p>ありがとうございました。</p> <p>重要な視点ですので、どこかで整理したいと思います。</p> <p>次に、(3) 近年の廃棄物行政についての説明をお願いします。</p>
事務局	<p>(3) 近年の廃棄物行政について (説明)</p>
委員長	<p>ありがとうございます。</p> <p>補足として、国連で 2030 年まで世界共通目標として、SDGs (持続可能な開発目標) が採択されました。SDGs (持続可能な開発目標) とは、経済、社会、環境の分野で 17 の大目標 (ゴール) と具体的な 169 の目標 (ターゲット) から構成されています。今までは 1 つの観点から見ていた課題を、複眼的・総合的に色々な視点から見て解決していく (個々ではなく、みんなで対応していく) 「誰 1 人として取り残さない」というような取組みです。</p> <p>SDGs の中で廃棄物循環関係から、「つくる責任、つかう責任」や「飢餓問題と食ロス」などがあります。</p> <p>また、国は「地域循環共生圏」の考え方で、地域が自立・分散型の社会を形成し、地域の特性に応じた、「第 5 次環境基本計画」を推進していくことを、閣議決定し、近々確定すると思えます。</p> <p>今回の基本計画の中にもごみ問題だけではなく、例えば福祉や高齢者、地域社会やその他いろいろなことを複眼的に考え、その対応、対策などを含めた計画にしていかなければと思えます。</p> <p>それでは、何か質問等ございましたらお願いいたします。</p>

五十君委員	食品ロスの話ですが、フードバンクに組合として参加を検討していますか。
鬼沢委員	例えば、フードドライブを常時組合でしますとか、受付窓口を設けるからご家庭で使わない、「賞味期限がまだ4週間ぐらいある、余っている食品があれば受け取ります。」と、というようなことを組合でやるのかとか、あるいはイベントのときに、そういう物を受け取るとか、受け取った物をフードバンクに寄付をしますとか、そういう取組みを組合としてするのか、という事です。
事務局	構成市町の中で、社会福祉協議会等で窓口としてやられています。市町と話し合い、窓口として組合に場所を設けるというのは、相談等があれば考えていきたいと思っています。今すぐに結論は出せないですが。
鬼沢委員	例えば、窓口等をスーパーやお店に働きかけるというの、1つの方法で、やり方はいろいろだと思います。組合として積極的に関わっていくつもりはあるのかという質問だと思いますが。
委員長	先ほど、「市町の社会福祉協議会が窓口でやっている。」と、意見がありましたが、市町はどのような取組みをしていますか。
白井市	白井市では、社会福祉協議会が庁舎内に事務所を構えており、そこで常時のぼりを立ててフードバンクということをやっているため、来ればそちらに案内するという対応をしています。
委員長	それは、ごみ関係のイベント等で連携はしているのですか。
事務局	連携はしていません。ただ、リサイクルマーケット等の中で、リサイクル販売等は実施しています。ただ、食品については、消費期限等難しい問題があるというのも事実です。
委員長	SDGsというのは、成熟したシステムにある、縦割りをやめて様々な所と連携しながら効率的に良い方向に持っていく、取組みをみんなで協力して進めていきたいと思います。ですから、意識さえ持てば、市町村は、同じフロアで近くに異なる部署で、連携がしやすいため、より効果的にできると思います。組合は、中間処理や運搬等、定款の中で決められていることをやっていますが、そこでお互いに連携し合えることがあれば、事業の範囲内で様々なことを協力し合うのは、出来るのかなと思います。
鬼沢委員	例えば、スーパーだけでなくスポーツクラブ等、人が集まりやすいところに、「お歳暮などの、余っている食品ありませんか。」と、働きかけるだけでも、色々な人達が集まりますので、効果はあると思います。女性専用のスポーツジムが、一時やっていたようにスポーツジムに行きながら、家庭で眠っている缶詰を持って行くとか、呼びかけだけでもやっていけば、活動を理解して協力してくれるところが出てくるのではないのでしょうか。その様な取組みを、市町が積極的にやっていけばごみが減るわけです。いただき物の食品や、封も切らずに捨てられているものが、家庭の食品ロス中の18%もあると言われていいますので、ごみを減らす意味でも積極的に取り組んでいただきたいと思います。

委員長	手つかずの食品を減らすための何か意識啓発活動というのは、市町で取り組んでいますか。
白井市	白井市では、「おいしい食べきりネットワーク」に加入しています。今は、3010運動（宴会のときに、初めの30分と後の10分、食べることに専念してお残しは許しません）を徹底し、企業にもPRはしています。手つかず食品に関しては特に施策はしておらず、課題と捉えています。
鬼沢委員	お中元の時期に、自分の家で使わないものをいただいた時など、それが何か月もずっと置きっぱなしということがあるため、8月ぐらいはかなり集まると思い、すごく意識づけにはなると思います。
五十君委員	先ほどおっしゃられたように家庭で眠っているものを、そのままごみとして捨てるようなことがなくなるということと、今印西地区でも子ども食堂や、独居老人のための食堂が、NPO法人で立ち上がっている段階ですが、そこで、食材の調達に困っている方が多くおり、フードバンクとも連携してやっていきたいという事は言われています。組合がやることではないのかもしれないが、市町でも、そういったことを意識して集めていただけると、それこそ本当に地域循環、共生循環社会の始まりにもつながっていくのではないかと思います。
委員長	ありがとうございます。福祉面との連携ということが、資源の循環にも関連し、最終的には、ごみに出ないということになりますので、そういった考え方などもこの計画の中で見せていってもいいかなと思います。 他に何かありますか。 それでは、今日の議論も踏まえ整理させていただき、次回にはこの新しい計画をまとめるに当たっての視点、論点が出てくると思いますので、事務局と相談させていただきながら、いろいろと準備させていただきたいと思います。 次に、その他ですが何かありますか。
事務局	事務局より、今後のスケジュールと次回視察の件についての説明
委員長	ありがとうございます。 他にありますか。無いようですので、その他も含めて議事は終了しましたので、事務局のほうにお返しいたします。
事務局	委員長お疲れ様でした。 これにて、第2回検討委員会を閉会いたします。ありがとうございました。